



## 口と足で絵を描く実演と展示を開催

26日、両腕の自由を失いながらも、生きることに希望を持ち、口や足で絵を描き活動する芸術家(「口と足で描く芸術家協会」所属)による絵画の実演が行われました。実演は、障害者が口と足で絵を描く姿を紹介し、障害者の方への理解を図るために行われたものです。また、区役所1階ロビーでは、同協会に所属する芸術家が描いた絵画展が行われており、20点の個性豊かな絵が来場者を魅了しています(27日午後3時30分まで)。

病気や事故、怪我など、さまざまな理由から両腕の自由を失ってしまった人たちがいます。「口と足で描く芸術家協会」は、そのような人達に「生きる勇気と希望、自信をもって仕事をする事で自立してほしい」という考えのもと、昭和31年、リヒテンシュタイン公国で設立されました。始まった当初は、18名だった芸術家グループも、平成26年には、世界78の国や地域に800名以上の芸術家が在籍するまでに至り、日本でも22名が活動しています。描かれた作品は、絵葉書やカレンダー、文房具等として複製・販売し、その収益が芸術家の収入や障害を持つ方が絵画を学ぶための奨学金などに活用されます。



本日、区役所で実演を行ったのは、協会に所属する古小路浩典さん。古小路さんは、中学3年生のときに不慮の事故から全身マヒになりましたが、入院中に口と足で絵を描く画家のことを知り、退院後に職業画家の指導を受け活動を始めました。本日は、「休日」をテーマに熊の親子がボートに乗って楽しむ絵などの実演を行いました。古小路さんは「自分の描いた絵が、ノートやカレンダーなどの商品になります。手に取る多くの人に自分の絵を楽しんでもらいたい。」と話していました。明日は、梅宮俊明さんの実演が行われます。

また、区役所1階ロビーでは、明日27日まで、同協会による展示絵画展が行われ、「読書」と題した熊がリスに本を読んであげている空想的な絵や小さい子供がひまわりと一緒に写っている「夏休み」と題したかわいらしい絵など20点が並びます。

### 【報道機関 問い合わせ先】

障害者施策課 電話 03-3312-2111

総務部広報課 電話 03-3312-2111